

■ 主要製品売上高

(単位 百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成15年3月期		平成16年3月期	
		中間実績	通期実績	中間実績	通期見込
医療用医薬品		40,752 (4.9)	79,345 (1.5)	41,368 (1.5)	79,700 (0.4)
クラビット レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	6,885 (8.5)	12,691 (2.9)	6,816 (1.0)	12,650 (0.3)
クイクシン レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	595 (502.8)	1,399 (156.7)	1,359 (128.4)	2,060 (47.2)
タリビッド オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	3,202 (21.1)	5,566 (22.5)	2,670 (16.6)	4,730 (15.0)
チモプトール マレイン酸チモロール点眼液	緑内障治療剤	2,790 (5.7)	5,289 (7.9)	2,476 (11.3)	4,730 (10.6)
チモプトールXE マレイン酸チモロール持続性点眼液	緑内障治療剤	1,254 (21.7)	2,477 (15.4)	1,311 (4.6)	2,730 (10.2)
ピバレフリン 塩酸ジピペフリン点眼液	緑内障治療剤	346 (25.5)	628 (25.9)	255 (26.2)	470 (25.2)
デタントール 塩酸ブナゾシン点眼液	緑内障治療剤	696 (225.8)	1,498 (152.6)	925 (33.0)	1,980 (32.2)
ベチモール チモロール1/2水和物点眼液	緑内障治療剤	425 (17.2)	856 (4.0)	843 (98.5)	1,340 (56.5)
リボスチン 塩酸レボカバスチン点眼液	抗アレルギー 点眼剤	791 (21.6)	3,028 (36.1)	1,110 (40.3)	3,460 (14.3)
アレギサール ペミロラスタカリウム点眼液	抗アレルギー 点眼剤	370 (4.5)	848 (2.0)	324 (12.4)	780 (8.0)
アラマスト ペミロラスタカリウム点眼液	抗アレルギー 点眼剤	97 (321.3)	199 (3.9)	317 (224.1)	480 (141.2)
ヒアレイン ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角膜疾患治療剤	6,635 (11.6)	13,156 (8.5)	6,879 (3.7)	13,340 (1.4)
フルメトロン フルオロメトロン点眼液	抗炎症点眼剤	2,677 (5.0)	5,234 (9.6)	2,385 (10.9)	4,670 (10.8)
カリーユニ ピレノキシシン点眼液	初期老人性 白内障治療剤	1,762 (13.1)	3,326 (7.6)	1,763 (0.1)	3,210 (3.5)
オベガンハイ ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	1,196 (1.4)	2,305 (0.6)	1,188 (0.6)	2,310 (0.2)
ビーエスエスプラス オキシグルタチオン眼灌流・洗浄液	眼灌流・洗浄液	821 (20.7)	1,505 (25.1)	712 (13.2)	1,310 (13.0)
リマチル ブシラミン錠	抗リウマチ剤	2,414 (1.7)	4,751 (1.4)	2,445 (1.3)	4,840 (1.9)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	1,454 (10.8)	2,880 (10.5)	1,577 (8.5)	3,050 (5.9)
一般用医薬品		3,281 (10.3)	5,656 (14.2)	2,205 (32.8)	4,650 (17.8)

下段：対前年伸長率(%)

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	製品名	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
レボフロキサシン	クラビット クイクシン0.5% オプタイクス0.5% クイクシン1.5%	外眼部感染症 外眼部感染症 外眼部感染症 細菌性角膜潰瘍	第一製薬	日本						2000年4月
				米国						2000年11月
				欧州						2002年5月
				米国						2003年4月
レボフロキサシン+ブレドニゾロンA	DE-094	感染による角膜炎	第一製薬	米国						

特長:ニューキノロン系抗菌薬。欧州では11カ国で承認を取得し、ドイツ等5カ国で販売開始。高濃度製剤が可能になり、より強力な抗菌作用を発揮する。難治性の細菌性角膜潰瘍にも効果が期待される。レボフロキサシン+ブレドニゾロンAはレボフロキサシンとステロイドの合剤。

一般名	製品名	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ベミロラストカリウム	アレキサール アラマスト アラマスト	アレルギー性結膜炎	三菱ウェルファーマ	日本						1995年4月
				米国						2000年7月
				欧州					1999年12月	

特長:ケミカルメディエーター遊離阻害薬で、アレルギー性結膜炎や春季カタルに対して優れた効果を示す。

一般名	製品名	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ヒアルロン酸ナトリウム	ヒアレイン ヒアレイン	角結膜上皮障害 ドライアイ	自社	日本						1995年6月
				米国					準備中	

特長:生体成分であるヒアルロン酸ナトリウムを含有する角結膜上皮障害の治療用点眼剤。眼球乾燥症候群(ドライアイ)、コンタクト装用等に伴う角結膜上皮障害を改善する。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	DE-076	春季カタル	ノバルティス	日本						2003年8月

特長:オーファンドラッグ。免疫抑制薬シクロスポリンの眼科適用。従来の抗アレルギー薬では効果不十分な中等度以上の春季カタルに対する効果が期待される。点眼薬であるため、全身性の副作用はほとんど認められない。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	米国 日本						

特長:プロスタグランジン系緑内障治療薬(眼圧下降薬)。3極同時開発。他のプロスタグランジン系薬剤よりも強い眼圧下降作用が期待される。室温保存が可能である。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
オルメサルタン	DE-092	緑内障・高眼圧症	三共	日本						

特長:アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤として唯一本格開発段階にある薬剤。PG製剤に匹敵する強力な眼圧下降作用を有する。副作用(結膜充血など眼局所を含む)が極めて低いと想定される薬剤である。特に高眼圧の緑内障が大半を占める欧米において、高いポテンシャルを有する。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
塩酸ロメリジン	DE-090	緑内障	日本オルガン	日本						

特長:視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の本格的開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が明らかに軽微であり、高い安全性を有する。日本オルガン社により偏頭痛薬として上市済。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
diquafosol tetrasodium	DE-089	ドライアイ	インスパイア社(米国)	日本						

特長:角結膜上皮から涙液構成成分や水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬との併用が可能であるとともに無効例への効果も期待できる薬剤。

一般名	コード番号	効能	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-096	関節リウマチ	自社	日本						

特長:TNF阻害剤。経口にて生物製剤に匹敵する抗リウマチ効果を基礎にて確認。

■医薬品開発状況一覧表(臨床準備中 一部抜粋)

一般名	コード番号	効能	自社/導入等
未定	DE-098(抗APO-1抗体)	関節リウマチ	セントコア社(米国)
特長: RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。実生産規模での原薬製造法工程を確立し、製剤開発検討実施中。			
一般名	製品名	効能	自社/導入等
ブシラミン	リマチル	変形性関節症(効能追加)	自社
特長: OAによる関節炎症への効果を確認。			

■医療機器 開発状況一覧表

開発品目	製品名	開発地域
眼内レンズ	MD-13	日本
特長: 新しい素材を用いたフォールダブル眼内レンズ。既にレンズテック社、スターサージカル社がヨーロッパを中心に発売済。		
開発品目	製品名	開発地域
眼内レンズ	MD-14	日本・米国
特長: 高屈折率の新しい素材を光学部に用いたフォールダブルレンズ。米国アドバンスド・ビジョン・サイエンス社が開発。		

■前回発表時(2003年5月9日)との変更点

【進階】

一般名/コード番号	効能	地域	開発ステージ
シクロスボリン/DE-076	春季カタル	日本	フェーズ3 → 申請
DE-096	関節リウマチ	日本	臨床準備中 → フェーズ1

【開発中止】

一般名/コード番号	効能	地域	中止前開発ステージ
アパファント/DE-081	アレルギー性結膜炎	日本	フェーズ2
理由: P A F がアレルギー発現に対して寄与率が小さいことが判明し、開発を中止。			

■研究開発部門人員数の推移

(単位:人)

	1999.3	2000.3	2001.3	2002.3	2003.3
研究開発人員(連結)	314	370	404	482	485

## 設備投資

(単位：百万円)

	平成15年3月期		平成16年3月期	
	中間実績	通期実績	中間実績	通期見込
設備投資額	1,905	4,134	1,735	3,590

## 減価償却費

(単位：百万円)

	平成15年3月期		平成16年3月期	
	中間実績	通期実績	中間実績	通期見込
総額	1,692	3,638	1,881	3,940
製造経費	762	1,549	769	1,650
販管費	348	699	359	700
研究開発費	535	1,224	738	1,520
その他の	47	164	15	70

(注) その他は、賃貸等に対する減価償却費であります。  
長期前払費用、及び営業権の償却費は除いています。

## リース料

(単位：百万円)

	平成15年3月期		平成16年3月期	
	中間実績	通期実績	中間実績	通期見込
総額	316	675	313	760
製造経費	284	588	246	630

## 研究開発費

(単位：百万円)

	平成15年3月期		平成16年3月期	
	中間実績	通期実績	中間実績	通期見込
研究開発費	6,313	12,719	6,245	13,000
対売上比	13.6%	14.1%	13.5%	14.5%